

避難所ワークショップ

避難所運営から見てくる

民主主義と合意形成のヒント

—南海トラフ地震のためのリスク・コミュニケーション—



■南海トラフ地震では、多くの被災者が発災直後の生活を避難所で送ることが予想されます。阪神・淡路大震災、東日本大震災の避難所の暮らしは、多くの困難を被災者に迫りました。予想される大地震に備えて、過去の震災時の避難所運営における様々な事例を知るファシリテーターとともに、真に実践的な防災への備え、構えを考えてみましょう。究極的な不自由さのなかで、様々な声が同時にわき起こる避難所という生活空間。そのなかでの合意形成のプロセスは、意外にも日本社会そのものに漂う閉塞感を吹き飛ばすヒントにあふれた場であることが理解されるでしょう。



写真：東日本大震災時に避難所となった学校の体育館

無料・要申込

対象：神戸大学生。

氏名・学年・所属を
明記して下記に申込

【日時】 2014年 **7月22日（火）18:30～20:30**

【会場】 神戸大学国際文化学部キャンパス F201 教室

【ファシリテーター】 **村井雅清** 被災地 NGO 協働センター代表



プロフィール： 1969年兵庫県立兵庫高校卒業、震災発生まで長田のケミカル業界に従事。震災後「ちびくろ救援ぐるうぷ」事務局長（後、代表）として救援活動に取り組む一方、被災地 NGO 協働センターの代表となり現在に至る。「CODE 海外災害援助市民センター」理事、「震災がつなぐ全国ネットワーク」顧問、しみん基金 KOBE 副理事長など。神戸大学非常勤講師、福井大学非常勤講師、神戸松蔭女子大学非常勤講師。2006年4月より神戸学院大学客員教授。2011年11月第21回ロドニー賞受賞

著書に「ボランティアが社会を変える」（共著、2006年、関西看護出版）、「災害ボランティアの心構え」（2011年、ソフトバンク新書）。

【主催・申込先】

神戸大学学生ボランティア支援室

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1

TEL 078-803-6256

FAX 078-803-6028

E-mail hq-vol@lab.kobe-u.ac.jp



写真：東日本大震災時に避難所となった寺の本堂